

## 第4期横浜市南区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会にかかる意見書（集約）【確定版】

施設名： 横浜市南区福祉保健活動拠点  
 応募団体： 社会福祉法人横浜市南区社会福祉協議会

委員名	意見（評価できる点等）	質疑	回答
八森委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉保健活動拠点到望まれる運営ビジョンは団体の目的と合致し、組織運営も安定。</li> <li>・社会福祉協議会は、ボランティアセンター、移動情報センター、権利擁護事業、子育て支援、高齢者支援、障がい児者支援など、各種福祉事業を行っており、福祉保健活動拠点が課題解決をしていくうえで、解決する能力が高いと思われる。</li> <li>・地域活動に関係する各種団体、人材とのネットワークが強く、事業遂行のための地域団体との連携の実績があり、今後の実効性も高いと考えられる。</li> <li>・地域のボランティアの発掘や育成、調整などについて、ボランティアセンターとの連携も密にとれており、そのノウハウも十分にある。</li> <li>・区行政や地域の関係機関と協働した事業運営に慣れている。</li> </ul>	<p>新型コロナウイルス緊急事態宣言が発動され、外出自粛が行われている（今後も同じような事態があったり延長されたりする可能性もある）が、外出自粛や営業自粛・活動自粛が社会的弱者に及ぼす問題について、どのような地域の課題があると分析・認識しているか？</p> <p>現状でとらえている課題と現在、福祉保健活動拠点として取り組んでいること、また、今後の対策について考えていること、検討していることなどについて教えてください。</p>	<p>生活のしづらさや困りごとがある方にとっては、福祉施策などの公的サービスのほかに、本会が重点的に取り組んでいる「身近な地域のつながり・支えあい」の推進など、地域ぐるみの支援も重要と思われます。</p> <p>本会のミッションを踏まえ、福祉保健活動拠点の管理運営を行う上で、活動の場の提供のみならず、ホームページなどを活用しての区民や地域活動団体等へ適切な情報発信を行ったり、コロナウイルス感染拡大により生活困窮に陥った方への相談対応や、フードバンク等による食糧支援対応など、「集合せずとも活用できる場」として、拠点機能を活かしていきたいと考えております。</p>
加賀美委員	<p>「誰もが安心して自分らしく暮らせる社会を、みんなで作ります」</p> <p>南区社協は昭和26年に結成され組織運営・事業・ビジョン・意識・拠点の管理運営や利用促進・ボランティアセンターの機能や育成支援など、他の関連組織とのネットワークなど多彩な平業を70年間にわたり展開してきました。</p> <p>組織運営の歴代会長さんを始め、理事会・評議委員会の皆様のご尽力の賜物と感謝しております。</p> <p>今後は「新型コロナウイルス」をはじめ、新たな「病原菌や自然災害」などの対応を南区民のためにぜひ頑張ってください。推薦致します。</p>	なし	/
川井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南区社会福祉協議会について</li> <li>・南区社協の運営ビジョン</li> <li>・南区社協が拠点を運営する意義</li> </ul> <p>上記項目について理解しました。</p> <p>南区の地域福祉事業の推進、福祉のまちづくりの充実は、区社協が区役所・地域ケアプラザと共にあたかも地域住民のごとく、地域を理解し支援を継続してこられた功績に他ならないと実感しています。</p> <p>民生委員として30年余変化を拝見させていただきました。</p>	なし	/
中根委員	<p>非常勤職員はできるだけ区内の住民を採用するなど地域を理解し、地域に浸透しようとしている姿勢は評価したいと思います。</p> <p>ただ、資料からは、外国籍の住民が多い事以外にこの地域の特性は何で、現在の課題はどこにあり、だからここに力を入れていくというような具体的かつ将来を志向した取り組みが読み取れませんでした。</p> <p>地域福祉を展開する上では、地域特性を把握する事、住民を含む各団体との信頼関係が必須ですから、引き続き運営をお願いすることに異論はありません。</p>	<p>移動情報センターや余暇活動支援など多岐にわたる取り組みの中で、まさに今、力を入れようとしているポイントがありましたら具体的に教えてください。</p>	<p>区社協としては、「地域の一員」として、安心して生活をしていける環境整備が必要と考えております。近年特に、身近な地域で住民や地域団体が主体となった支えあい・助けあい活動や地域の誰もが利用でき安心して過ごせる「居場所」づくりを支援しています。</p> <p>その中で、障がい児者の移動を支援する移動情報センターでは、ガイドボランティアの育成や更なる事業者の確保に取り組んでいきます。併せて本会が運営するボランティアセンターとも連携し「支え手」の拡充を図っていきます。</p> <p>また中間支援組織として区内の施設、障がい者団体、地域をつなぐなど、社協の求められる役割を果たせるよう、今後もさらに努めていきます。</p>
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年齢層を対象とした事業活動</li> <li>・外国籍、障害者支援活動</li> <li>・ボランティアの育成・支援</li> </ul>	なし	/